

ぎょうだ  
**歴史系譜**  
 (184)  
**行田の近代化遺産**  
 17

栗原医院

本丸11-35に所在する栗原医院は、木立に囲まれた落ち着いた佇まいの洋館です。木造平屋建切妻屋根平板瓦葺のこの建物は、大正5年(1916)4月に駒形で開業した栗原治兵衛(現当主の先々代)が大正13年(1924)にこの地に移った際に建設したと伝えられています。外壁の下半部を下見板張りとし、上半部を漆喰で仕上げているのが特徴的です。

この栗原医院のある場所は、元は忍城の北西角、二階櫓が建てられていた場所でした。明治6年(1873)に忍城の建物が取り壊されると、次第に土塁が崩され、堀は埋め立てられて城郭の宅地化が進みます。そして大正時代の初めごろには矢場地区に、新開地と呼ばれる新しい市街地が形成されました。おそらく栗原医院は、そうした新市街地の形成に対応してこの場所に移って、ハイカラな病院を開業したものと思われまます。

栗原医院は、市内に残る数少ない木造の洋館として貴重な存在ですが、この医院のすばらしい点は、奥の増築部分も既存部分に合わせて外壁を下見板で仕上げ、屋根の色なども統一してまちの歴史や景観への気配りを払っていることです。そうした点が評価され、平成19年(2007)3月に、第2回浮き城のまち景観賞を受賞しています。

近年景観法が制定され、景観に対



栗原医院

する関心が高まりつつあります。これからは地域の個性や特色を見出し、自分たちのまちに対して愛着心や誇りを持ち、昔からある良いもの(近代化遺産が形づくる歴史的景観など)を保全しながら、それを生かしたまちづくりを、住民自らの手で進めていくことが重要だといわれています。美しいまちは住民に豊かさを与え、おもてなしの心を育み、まちに活気呼び起こします。事実、今年5月に行われた「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」では、足袋蔵が醸し出す風情と、そこで行われるおもてなしのイベントに、1千人を超える参加者がありました。同様に栗原医院が保全されてはぐくまれたこの歴史的な佇まいも、「アニメのような世界」を想起させ、地域に潤いを与える大切な景観資源であるのです。

(文化財保護課 中島洋二)

★ **キラリ 元気** ★ No.76

暑い夏がやってきます。夏バテしないように食事はしっかりととりましょう。夏野菜の代表であるきゅうりは90%以上が水分で、水分補給と体を冷やす効果があり、夏の暑気払いに適しています。カリウムも多く含まれており、利尿作用で体内の余分な塩分を排せし、血圧降下に役立ちます。夏野菜を多くとるために、火を通した料理を取り入れたり、キムチ味で食欲増進させたりしましょう。

**材料**(2人分)  
 きゅうり…3本 豚ひき肉…50g 白菜キムチ…50g A【しょう油…小さじ1 砂糖・塩…各ひとつまみ】 ごま油…大さじ1

**作り方**  
 ①きゅうりは縦半分に切り、斜め4～5mmの厚さに切る。  
 ②キムチは細かく刻む。  
 ③フライパンにごま油を熱し、ひき肉を中火で2～3分いため、きゅうりを加えてさっといためる。キムチとAを加え、さらに強火でいためる。

…みずみずしい夏野菜…

きゅうりのキムチいため



**栄養成分**(1人分)  
 エネルギー137kcal たんぱく質7.1g 脂質9.1g  
 炭水化物6.9g 食塩相当量1.1g カリウム473mg

加須保健所管内行田分室地域活動栄養士会

今月の表紙

6月7日、古代蓮の里東側約6,000平方メートルの田んぼで、田んぼアート米づくり体験事業の田植えが行われ、市内外から115人が参加しました。汗をかきかき6種類の品種の苗を植えた参加者らは「秋にどのような絵が浮かび上がるのかとても楽しみ」と話していました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています